

	重点目標	手 段	評 価				現 状 (○取組状況 / ●課題)	改善策等	学校関係者評価委員会の意見	総合 評価
			児童 生徒	保護者	職員					
1	確かな学力を身に付けた子どもの育成	(1) キャリア教育を意識した教育実践	3.2	3.1	2.9		(共通) ○ 義務教育9年間を見据えたキャリア教育の推進を図り、小中一貫校ならではの取組をしている。 (小学部) ● 今年度はコロナ過の影響で、例年取り組んでいる田植え→稲刈り→餅つきの活動が実施できなかった。また、次年度に向けて、道路拡張の関係で水田の確保や田植えの協力者を検討する必要がある。 (中学部) ● 本年度はコロナ過の影響で、「職場体験学習」や市の事業(職業人講話、地元企業での体験学習)を実施することができなかった。次年度は開催に向けて計画を立てている段階である。	(共通) ・ 中学校卒業時の進路情報を小中職員で共有し、小学校段階から義務教育の出口を意識した指導をする等、一貫校ならではの取組を積極的に行っていきたい。	・ コロナ禍の影響で、地域と連携した行事ができなかった。今後、コロナの状況を見ながら、できるところからできる範囲で活動を再開してほしい。	3
		(2) 粘り強く学習に取り組む子どもの育成に向けた指導の充実	3.2	3.1	3.0		(共通) ● この項目に関して、保護者の評価が昨年度の2.8から0.2ポイント良くなった。小学部中学部合同の授業研究会を積極的に実施し、分かる授業の構築を図り、更なる学力の向上に努めていきたい。	(共通) ・ これまで同様、学習課題の提出等家庭との連携を図りながら、また小中学部で情報を共有しながら、根気強く指導を繰り返していきたい。	・ 最近の子どもたちは、粘り強く物事に取り組むことができなくなっているように思える。学校だけでなく家庭とも連携した取り組みが大切だと思う。	3
		(3) 9年間をとおした計画的な外国語活動・外国語指導の充実	3.4	3.3	3.1		(共通) ○ 小中一貫校の良さを生かし、中学部の職員が小学部高学年に「乗入授業」を行っている。	(共通) ・ 小学部に導入されている「外国語活動サポーター」や小中の授業をサポートしてくれる「ALT」との連携も図り、充実した外国語活動を展開していきたい。	・ 小学生のうちから、中学校の先生に英語を習う環境ができていることは、本校は恵まれている。	3
		(4) 言語活動を意識した指導の充実(読書活動、作文発表会、新聞への積極的な投稿等)	3.1	3.2	2.8		(小学部) ○ 俳句や短歌を新聞や作品募集等に積極的に投稿している。また、絵画(ポスター)では、宮崎県レベルで入選している。 (中学部) ○ 今年度から毎週1回木曜日に延岡市の読書推進員が来校され、図書の整備や購入の手伝い等の業務を手伝って頂いている。	(小学部) ・ 新聞に掲載されることで、子どもたちに自信と誇りを持たせていきたい。 (中学部) ・ 例年地域の方々からも楽しみにして頂いている、くろいわ祭で展示している、ポスターなどの作品が、規模を縮小したため、展示できなかった。次年度は展示できるよう、職員一丸となって取り組んでいきたい。	・ 新聞等に児童生徒の作品や記事が掲載されていると、うれしい。今後がんばってほしい。	3
		(5) 個に応じた指導の充実(家庭教育・個別支援)	3.4	3.3	3.2		(共通) ● 多くの児童生徒が「学力」を身に付けたいと思う一方で、「自ら進んで勉強に取り組んでいる」という評価が低い児童生徒も多い。	(共通) ・ 保護者との連携を図り、家庭での時間の使い方(学習時間の確保)や学習に集中できる環境づくり等、個に応じた指導を行っていきたい。 また、キャリア教育の充実を図り、今の学びが将来の夢実現のために重要なことを、教師、保護者、地域が一体となって様々な行事を通して理解させていきたい。	・ 大規模・中規模の学校は、学級を少人数に分けて学習指導をしているが、本校ではどんな指導をしているのだろうか。 ⇒人数が少ない分、一人一人の個人差に応じた指導ができています。	3

	重点目標	手 段	評 価				現 状 (○取組状況 / ●課題)	改善策等	学校関係者評価委員会の意見	総合 評価
			児童 生徒	保護者	教職員					
2	人間性豊かな子どもの育成	(1) 人権教育の充実	3.3	2.9	3.0		【共通】 ○ 昨年度で終了した県指定の「ピア・サポート（人間関係づくり）推進校」としての取組を今年度も継続して行い、仲間とともに支え合う人権感覚をもった人づくりを進めている。	【共通】 ・ 仲間同士で相互に支え合う「ピア・サポート活動」に取り組むことで、児童生徒は友達の行動をよく見て、適切な判断をしたり、行動したりすることができるようになってきている。今後も継続して取り組んでいくことで、思いやりの心や他者と協力する態度を培っていききたい。 小学生のあいさつや返事は、高学年を中心にようになってきているが、地域でのあいさつはさらに指導が必要である。指導に当たっては、学校・家庭・地域が連携して取り組むようにしたい。	・ 素直な子どもが育っている。ピア・サポートを、さらに児童生徒に根付かせていくようにしてほしい。 ・ 小学生・中学生とともに、仲が良く、楽しそうに学校生活を送っている。	3
		(2) 家庭と連携した基本的な生活習慣の育成（あいさつ・返事・清掃・時を守る指導）	3.3	3.2	3.0		【共通】 ○ コロナ禍で、学校保健委員会が開催できなかった。ほけんだより等で、「メディアコントロール（生活リズムの改善）」を取り上げ、家庭での時間の使い方や健康について考える機会を設定している。 ● 「大きな声であいさつできているか」の問いに対し、児童生徒（8割）、保護者（6割）、教職員（7割）と評価が分かれている。継続した指導の必要性を感じる。		・ 小学生の地域の人への朝のあいさつは、だんだんようになってきている。しかし、まだ声が小さい時もある。 ・ 中学部のあいさつは、よくできている。すばらしい。 ・ テレビやゲーム、スマートフォンなど、児童生徒の身近にメディアがたくさんあるので、適切な使い方を教える必要がある。また、外遊び等の体を動かすことの楽しさを、いろいろな機会に教えてあげたい。	3
		(3) 道徳の時間の充実	3.2	3.6	2.8		【共通】 ● 児童生徒、保護者、教職員の三者共に、「自分で考え、判断し、行動する力」を身に付けたい（身に付けさせたい）力としてあげている。また、保護者、教職員の評価では5割弱が、それらの力が身に付いていないという結果が出ている。			3

	重点目標	手 段	評 価				現 状 (○取組状況 / ●課題)	改善策等	学校関係者評価委員会の意見	総合 評価
			児童 生徒	保護者	職員					
3	たくましい体の 育成	(1) 運動の生活化・ 日常化（体育の 時間、遊び、部 活動、新体力テ ストの活用等）	3.2	3.0	2.9		（小学部） ● 教室で読書をして過ごす児童が みられることもあるが、昼休みや 放課後子ども教室の時などに、グ ラウンドや中庭・体育館で元気よ く遊んでいる児童が多い。 （中学部） ○ 全生徒が卓球部に所属しており 高い目標を設定し、熱心に活動に 取り組んでいる。今年度は、コロ ナ禍の影響で積極的に練習試合を 計画することができなかったが、 練習内容の改善を図り、活動のレ ベルが向上してきている。	（小学部） ・ 「みんなで遊ぶ日」などを設定し、学 級みんなで、または全校で遊ぶことを通 して、体を動かす機会を増やしていきたい。 （中学部） ・ 生徒が部活動に対し、自主的に取り組 める環境整備の支援をすると同時に、人 間形成の場として指導していきたい。	・ 中学生が全員で楽しく活動したり、遊んだ りしているのを見ると、うれしくなってく る。 ・ 遊びの中で、高学年がどんどんリーダーシ ップを発揮してきた。1年生から6年生ま で、いっしょに楽しく遊んでいるようだ。	3
		(2) 危険予知・危機 回避能力の育成 （交通安全教 室・避難訓練の 充実）	3.9	3.4	3.5		（共通） ○ 毎月の安全点検や定期的な避難 訓練（火災、地震、不審者等） で、児童生徒が安全な学校生活が 送れるように努めている。 ○ 市教育委員会からの不審者情報 については、すぐに学級担任に連 絡し児童生徒へ指導を行った。	（共通） ・ 避難訓練は、関係機関との連携を図 り、効果的な訓練計画を立てるととも に、危険予測力及び危険対応力を身につ けさせていきたい。	・ 最近の子どもたちは、「加減を知らない」 と感じるときがある。いろんな意味で、体験 が不足しているのも、一つの原因だと思われ る。	4
		(3) 保健・食に関す る指導の充実 （弁当の日、早 寝・早起き・朝 ごはん）	3.2	3.0	2.9		（共通） ○ 毎月、保健室だよりを発行し心 身の健康に役立つ情報を児童生徒 や保護者に提供し、啓発してい る。 ○ 体育祭の前日準備に合わせて「弁 当の日」を設定した。それに伴い、旭小 学校の栄養教諭を招き、事前指導を行っ た。また、ワークシートで取組状況を確認 し称賛することで、食育に対する意 識の向上に努めた。 ○ 「健康な体づくりプロジェクト （肥満の個別指導）」を実施してい る。	（共通） ・ 毎朝の健康観察、来室状況、生活アン ケート、健康相談等で、児童生徒の健康 状態を把握し、生活リズムが崩れないよ うに、継続して指導していきたい。 ・ 積極的な保健指導を行い、感染症や熱 中症の予防等に努めていきたい。	・ 病気等で休む児童生徒は少なく、心身とも に健康だと思われる。 ・ コロナ禍の中、感染拡大防止の取り組みが 学校・家庭でしっかりと行われたと思われ る。	3

	重点目標	手 段	評 価				現 状	改善策等	学校関係者評価委員会の意見	総合評価
			児童生徒	保護者	教職員					
4	家庭・地域に信頼される学校づくり	(1) 教職員の資質の向上（校内研修、コンプライアンス）	3.3	3.5	3.4		（共通） ○ 毎月のコンプライアンス点検及び長期休業中の研修を行うことで、法令及び社会の良識等を遵守することへの意識の向上に努めている。	（共通） ・ 教育公務員としての自覚と責任のもと信頼される学校づくりのために、今後も様々な機会を通して資質向上に努めていきたい。 また、日頃から職員間のコミュニケーションを図り、風通しの良い明るい職場づくりに努めるとともに、本校から違反者等を出さない雰囲気作りに努めたい。	・ 先生たちは、自分の持ち味を生かした教育実践をしてほしい。地域も先生方をバックアップします。	3
		(2) 学校から情報発信（学校便り、学級通信、ホームページ）	3.7	3.5	3.2		（共通） ○ 学級通信や学校便りを定期的に発行するとともにホームページを随時更新している。	（共通） ・ 今後も学校便りや学級通信、ホームページ等を通して、学校からの情報発信を積極的に行っていきたい。 ・ 学校評価（保護者のアンケート結果）及び学校関係者評価の結果を有効に活用していきたい。	・ 地域住民がもっと積極的に学校行事に参加できるように、地区内の放送でも呼びかけてはどうか。	3
		(3) 家庭、地域へのきめ細かな対応（相談活動、地域行事への参加）	3.4	3.4	3.2		（共通） ○ 学級連絡帳や参観日の懇談会、黒岩地区連絡協議会等から保護者や地域の方のご意見・ご要望などの情報を得ている。 ● 地域の行事に積極的に参加しているという意識の児童生徒は7割弱という状況である。常日頃からお世話になっている地域に対し、感謝の気持ちを持てる指導の必要性を感じる。	（共通） ・ 今年度はコロナ禍で、例年青少協と連携して取り組んでいた河川清掃や秋祭り、歩こう会等の地域の行事がなかったので、参加することができなかった。来年度は、コロナの状況を見ながら、参加できるものには参加を促していきたい。 ・ 学校に対する地域の声を大切にし、それに応える努力をするとともに、より開かれた学校づくりを目指す。	・ コロナの状況を見ながら、以前のような学校と地域が一緒になった行事等に取り組んでいけるようにしたい。	3

【学校評議員の皆さんが、これから子どもたちに身に付けて欲しい力】

- ・ 粘り強く物事に取り組んでいく力を身につけてほしい。
- ・ 生き物を育てるような体験活動や人との関わり合いを通して、生命を尊重する心や人を思いやる心を身につけてほしい。

【次年度の方向性についての校長所見】

- ・ 本年度の学校経営キーワードである『希望』目標をもって生活しよう。」を様々な場面で児童生徒に意識させ、学習面・生活面での成長につなげていく。
 具体的には、児童生徒、保護者、教職員の三者が共に身に付けたい（身に付けさせたい）力としてあげている「自分で考え、判断し、行動する力」について、学習指導の工夫改善及び、生活指導をさらに充実させ、主体的に判断し表現できる児童生徒の育成をめざしていく。
- ・ コロナ禍で実践できなかった黒岩小中学校ならではの行事（田植え・稲刈り・もちつき 等々）をできるだけ実践し、保護者・地域との連携を図り、「地域に根ざした学校」・「開かれた学校」づくりに努めていく。
- ・ 毎月のコンプライアンスチェックを確実にし、研修の充実を図りながら、教育公務員としての自覚を持ち、地域から信頼される小中一貫校づくりに努めていく。